

授業科目名	社会福祉現場実習	担当教員名	入江 実
必修/選択	選択 (/社会福祉主事任用資格)	開講学年・学期	期間 (年間開講数 1講座)
科目区分	その他の資格取得科目	単位数	4単位
施行規則に定める科目区分等		授業方法/担当形態	実習 / 単独
		特記事項	
授業の到達目標	<p>1.現場体験を通して社会福祉主事として仕事をする上で必要な知識、援助技術の内容の理解を深める。</p> <p>2.講義、演習等で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関りを深め、利用者が求めている社会福祉の需要に関する理解力、判断力を養う。</p> <p>3.社会福祉の知識や技術を実際に活用し、援助業務に必要な資質・能力・技術を取得する。</p> <p>4.職業倫理を身に付け、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。</p> <p>5.関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。</p> <p>(1)利用者及び社会福祉事業従事者の保健の意義について理解する。</p> <p>(2)レクリエーション活動の社会的意義を理解する。</p> <p>(3)体育及びレクリエーション活動の基本的原則について理解する。</p> <p>(4)体育指導及びレクリエーション活動援助を実技を通じて計画作成能力・実技能力を習得向上させる。</p>		
授業の概要	<p>社会福祉主事任用資格の習得に必要な実習であり、実習を通して社会福祉全般を体験的に理解することにある。人々が社会生活の中で憲法25条にいう健康で文化的な最低限度の生活を営む権利が損なわれている状況に遭遇した時、それに対して自助の機能を働かせることができずに自立を阻害されている人々を対象とした生活保護法にいう保護施設で、いかなる援助がなされているかを体験的に学習することで社会の在り様を理解することにある。</p>		
テキスト	「実習ハンドブック」大阪教育福祉専門学校編著		
参考書・参考資料等	特に指定せず		
成績評価の方法	実習先からの評価表：55%、実習記録：45% この二つの資料を基に評価認定を行う		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	現場体験を通して社会福祉主事として仕事をする上で必要な知識、援助技術の内容の理解を深める。		
第2回	講義、演習等で学んだ知識に基づいて、利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている社会福祉の需要に関する理解力、判断力を養う。		
第3回	社会福祉についての知識や技能を実際に活用し、援助業務に必要な資質、能力、技術を取得する。		
第4回	職業倫理を身に付け、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。		
第5回	関連分野の専門職との連携の在り方、及びその具体的内容を理解する。		
定期試験	定期試験は実施しない		